

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじん にほんきじゅつぎょうかい 公益社団法人 日本奇術協会	団体ウェブサイトURL https://www.jpma.net/
代表者職・氏名	会長 正木慎一	
制作団体所在地	〒 169-0073	最寄り駅(バス停) JR総武線 大久保駅
	東京都新宿区百人町 1-20-3-402	
電話番号	03-3361-5221	
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじん にほんきじゅつぎょうかい 公益社団法人 日本奇術協会	団体ウェブサイトURL https://www.jpma.net/
代表者職・氏名	会長 正木慎一	
公演団体所在地	〒 169-0073	最寄り駅(バス停) JR総武線 大久保駅
	東京都新宿区百人町 1-20-3-402	
制作団体 設立年月	1936年 12月	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	会長:正木慎一 副会長:長谷和幸 常任理事: 加藤明彦 理事:林 太・後藤尚美・渡邊奈月・北 野隆義・小林 昭・中 崇・長谷川一矢・高岡若 葉・常任幹事:松下敏雄・幹事:佐藤元一・近藤哲 司	「正会員」この法人の目的に賛同し理事2名以 上の推薦に基づき入会した職業奇術師。「準会 員」この法人の目的に賛同し理事2名以上の推 薦に基づき入会した職業奇術師。「賛助会員」こ の法人の事業を援助する個人または法人。「名 誉会員」この法人に特に功労のあった者、学識 経験者で総会の決議をもって推薦された者。

事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	小林 昭
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	伊藤利一
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	yokota@dm-c.jp		

制作団体沿革	<p>●昭和11年12月「第1回集会」(目黒雅叙園にて)●平成2年 12月3日を「奇術の日」と制定する。●平成5年3月 公益法人許可を得て「社団法人 日本奇術協会」となる。●平成9年5月「和妻」は記録作成の措置を講ずべき無形文化財として採択される。●平成20年度より12月1日～3日の三日間「奇術の日普及活動」を実施。●平成24年内閣府より公益社団法人の認定を受ける。</p>
学校等における 公演実績	<p>●平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」Bブロック ●平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験」Dブロック ●平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」Iブロック ●平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」Hブロック ●平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」Eブロックに於いて「ベストマジックフェスティバル」公演を行う。 ●平成26年度・29年度「文化芸術による子どもの体験事業」Jブロックに於いて「Magic-of-MAGIC-Compilation」 ●平成30年度Cブロック「文化芸術による子供の育成事業」Iブロックに於いて「Magic-of-MAGIC-Compilation」 ●令和元年「文化芸術による子どもの育成総合事業」Gブロックに於いて「夢と希望の創造空間 Magic-of-MAGIC-Compilaton」公演を行う。●令和3年度「文化芸術による子ども育成総合総合事業」Aブロックに於いて「夢と希望の創造空間 Magic-of-MAGIC-Compilton」公演を行う。 ●令和4年度Cブロック「文化芸術による子ども育成推進事業」「夢と希望の創造空間 Magic-of-MAGIC-Compilton」公演を行う。●令和5年度「舞台芸術等総合支援事業-学校巡回公演-」Dブロックに於いて「夢と希望の創造空間 Magic-of-MAGIC-Compilton」公演を行う。</p>

<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>●平成22年度 横須賀市立養護学校 ・ 静岡県立沼津聴覚支援学校 ●平成24年度 高知県立山田養護学校 ・ 愛媛県立みなら特別支援学校 ●平成25年度 福井県立嶺北養護学校 ・ 京都府立八幡支援学校 ・ 京都市立鳴滝総合支援学校 ●平成26年度 宮崎県立延岡しろやま支援学校 ●平成29年度 栃木県立足利中央特別支援学校 ●平成30年度長崎県立桜ヶ丘特別支援学校 ● 令和3年度北海道余市養護学校しりべし学園分校 にて上演の実績があります。 ※学校巡回公演と同じく出演者個人で障害保険福祉センターや特別支援学校等でも演じている奇術師もあり、公演は実施可能です。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>DVDを提出します。</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 10 名 スタッフ: 9 名 <hr/> 合 計: 19 名		運搬	積載量: 4 t 車 長: 6.2 m 台 数: 1 台	積載量: 1 t 車 長: 4,7 m 台 数: 1 台
	本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安			時間程度	
前日仕込み		前日仕込み所要時間			
到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
7時～7時30分	7時30分～10時30分	13時～14時45分	5分～15分	15時～16時45分	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
					15日
	11月	12月	1月	計	50日
	15日	10日	10日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安	6名～8名	
			鑑賞人数目安	全校を対象としております。 500名以上になると鑑賞位置によって 集中力に温度差が出る場合があります。	



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 公益社団法人 日本奇術協会 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	500名以上になると鑑賞位置によって集中力に温度差が出る場合があります。
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>オープニングに5分～6分のマジックを披露します。【A】マジックの歴史編：最古のマジックから現代のマジック(奇術)までの歴史を実演を交えて解説します。【B】マジックの理論編：奇術の基本原理より、代表的な7種類のマジックの原理を実演を交えて解説します。①「指先を使ったマジック」=仕掛けの無い道具で、指先の技術のみで行うマジックの実演・解説。②「道具に仕掛けがある」=道具自体に仕掛けがあるマジックの実演・解説。③「秘密のタネを使う」=仕掛けのない物に秘密のタネ(ギミック)を使って行うマジックの実演・解説。④「目の錯覚を利用する」=錯覚を利用した図形の道具を児童・生徒と一緒に目の前で起こる現象を体験します。⑤「理科の原理を利用する」=水をジュースに変える等、科学(化学)の原理を使ったマジックの実演。⑥「算数の原理を利用する」=数字を当てるマジック等、児童・生徒と一緒に実演。⑦「相手の注意をそらす」=いかに観客の目をそらすかの演技(ミスディレクション)の解説と実演。 ※以上のマジックは学校で学ぶ勉強が原理に繋がっている事を感じてもらいます。【C】実技編：教材を使いマジックを体験・習得してもらいます。</p>		
ワークショップのねらい	<p>マジック(奇術)の不思議さを楽しんでもらうには、実際にマジックを鑑賞する事が大切です。児童・生徒に配布した教材テキストには、代表的なマジックの原理がいくつか表記されています。原理や基礎知識を学び、自己表現力や演出・構成力・コミュニケーション能力を養ってもらう事を意図としております。 ※実際に令和元年においては保健室登校の児童がマジックに興味を持ちワークショップを通して他の児童とコミュニケーションが取れるようになった事例があります。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>全校児童参加にあたり手品という特殊な技術を使うものではあるが高学年と低学年の温度差が出来ないように高学年と低学年をペアにする、または縦割りグループで取り組んでおります。そこには互いにコミュニケーションをとり協力し皆が出来るようになりその時の喜びを実感し新たに覚えた手品を披露し周りを笑顔に出来るという事を伝えております。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 公益社団法人 日本奇術協会 】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 当協会は本事業を全会員の協力を得ている事を徹底しております。各会場での出演者及び演目はよりバラエティーに富んでいます。同時に公演の継続によって各学校の児童関係者がマジックの新たな課題やテーマを持って発展的にマジックを行う事が可能になります。 ●マジシャンにとっても当該事業に於いては、普段学ぶことが出来ない他流派の技芸の取り組み方を直接受ける事でマジック(奇術)の奥深さを知る事が出来る等、大変ためになる事業です。また、当該事業で推進する多様な演目と見せ方は奇術文化の継承に繋がっております。 ◎本事業での利点:・マジックの公演を行う事で新たな鑑賞者(マジックファン等)を育成出来る。・新人・ベテラン・他流派のマジシャン同士の交流も生まれる。 この様な効果を生むために、事務局は変化に富んだ顔付け(座組)を行うことを心がけておりこうした事を実現していくためには、個々のマジシャンや協会の意識改革も必要です。事務局としてはより積極的に公演に参加する事を周知徹底し、日頃の努力が実績として実っていく事の大切さも協調していきたいと考えております。 ※本事業により将来児童・生徒が社会に出た時に、周りとうまくコミュニケーションを取り、社会に馴染める様にと考えております。 以上が申請の理由です。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 ●学校との綿密な事前連絡の徹底を心がけております。公演の実施にあたり、計画書以外に大まかな公演開催の流れを書いた事前指導要綱をお渡しして、それをもとに電話やメールを使って入念にご案内をさせて頂いております。 ●学校との連絡をより密にして、変化に富んだプログラム編成に努力して公演の成果をより高めていきたいと考えております。5つのカテゴリーごとのプログラムの変化だけでなく、全体を通して観た場合の流れの変化・公正・演出の妙も出せるように工夫しております。これらの工夫が児童・生徒達の興味を呼び起こすように創意工夫に富んだプログラムの構成にしたいと考えております。</p>
--	---